第２回北海道ブロッククラブミーティング２００９開催報告

＊日時：＜第１日目＞平成 21 年 11 月 6 日（金）13：15～16：00
　　＜第 2 日目＞平成 21 年 11 月 7 日（土）13：15～16：40
＊会場：「北海道立総合体育センターきたえーる」講堂・視聴覚室

○はじめに

北海道・札幌市において、第 2 回北海道ブロッククラブミーティングが開催された。参加者は、第 1 日目は、創設支援クラブ（1 年目：3 クラブ、2 年目：29 クラブ）53 名を含む計 71 名であった。第 2 日目は主に活動支援クラブ、北海道総合型クラブ協議会加入クラブを対象とし、設立済みクラブ（活動支援クラブ：7 クラブ、北海道総合型クラブ協議会加入クラブ：3 クラブ）14 名、さらに創設支援クラブ（1 年目：1 クラブ、2 年目：8 クラブ）15 名を含む計 42 名であった。

内容については、以下のとおりである。

＜第１日目＞

○事例発表　テーマ「クラブの理念やミッションの大切さ
～世界一小さなスポーツクラブを目指して～」

コーディネーター：山本　理人　班長（北海道ブロック地方企画班）
発表者：豊浦大和地区スポーツクラブ　設立準備委員会事務局長　山田　智章　氏

山本班長より事例紹介及びグループワークテーマ設定の理由や協議の柱等説明、発表者を紹介した。

１）はじめに“豊浦町大和地区”の概要を説明

大和地区は、少ない人口、さらには児童が少なく、地域も限界集落に近づく中、地域を活性化するために、取り組み地点をしぼりスポーツクラブの設立を目指した。

２）設立に向けた取り組み

平成 15 年から 17 年まで体育指導委員を中心に体育協会役員等が各種講習会に参加し、総合型地域スポーツクラブの情報は得ていたが、豊浦町では既存団体も活動しており必要なしの結論が出ていた。平成 18 年に道体協クラブ育成アドバイザーが来町して、設立を強く勧められ、19 年 11 月「全市町村に一つづつ」の流れで、地区代表と話し合いを持って､20 年度より大和地区で設立準備に入ることを決めた。

３）クラブの理念

大和地区自治会が母体であるため、「大和地区でしか出来ない自然体験を家族みんなに楽しんでもらう」「生涯スポーツ事業を通し、住民の健康維持に努める！」を理念として準備期間の２年間は事業の開発に専念し、運営者のスキルアップを図っている。

４）現在の活動内容

地域の活性化を目指すため、“将来を担う子どもたちを大事にする”ことを柱に、地域住民と小学校の融合こそ第１歩と考えた。曜日・時間を問わず、学校施設内でクラブ事業を行う計画として、学校・住民の負担を極力軽減する事を模索した。

小規模校の子どもたちが普段体験できない種目を優先して行う。ソフトボールやスノーモービル体験会、自然体験学習等開催してきた。

５）課題

・ 住民が少ないこともあり、運営スタッフは少数固定で、一人の負担が大きい
・ 財源がないため、設立後の事業運営が不安
・ 農村地帯のため、夏季事業は参加率が低い

※児童も今年は３名で、将来の統廃合も計画され、学社融合の意義も薄らぎ、今後は、大和地区体育振興会との合体や自治会保体部との連携等を視野に課題を克服しながら、４ヶ月後の創設に結びつけたい。

６）質疑

（質問） 事務局体制は、現在は行政が担当しているが、創設後はどういう体制になるか。
（回答） 創設後も同じような事務体制で、行政支援は欠かせないと思う。

○グループワーク

＜グループ１＞ テーマ「設立（総会）に向けた事業（プログラム）や広報等具体的な取り組みについて」

コーディネーター：伊端 隆康 班員（北海道ブロック地方企画班）
事例紹介者、助言者：島崎 鶴松 氏（とまこまい・ぬま・あそび塾）

～事例紹介の内容～

クラブ設立の動機は、沼ノ端地区の少年団・スポーツサークルが長く活動していたが、地域環境の変化（宅地造成により人口増加）により共通した問題が多くなり、平成 12 年に校区の小・中・町内会の協力のもと少年団が軸となって「沼ノ端地区少年少女スポーツクラブ連絡会」を立ち上げた。この団体がベースとなって、平成 20 年に委託事業の指定を受け、平成 23 年度には法人格の取得を目指して活動を拡大している。クラブのビジョンとしては、多世代・多種目からなる教室や趣味的サークルの創設、他クラブへの参画などを掲げ、指導者の養成や競技力の向上に努めながら、いつでも、だれでも目的に合わせて参加できるサークルを創設する計画とした。また、ビジョン達成に向けた数値目標も設定している。１年間活動しての課題は、母体となった団体のエゴが目立ち、調整に費やす時間が多くなっている現状の報告があった。

～質疑応答～

なし

～グループワーク～

出席者よりそれぞれのクラブの特徴的な活動や課題について協議された。22 クラブよりそれぞれ取り組みの紹介が出された中で、ニュースポーツへの取り組みが多く、参加者間で確認しあった。特に、ふまねっと（ラダー仕様）やディスコン（カーリングに類似）、シュノーミング（プールでの潜水）等へ関心が寄せられた。

＜グループ２＞　テーマ「会費の徴収を含めた財源確保について」

コーディネーター：山本　豊　班員（北海道ブロック地方企画班）
事例紹介者、助言者：松永　厚美　氏
（新篠津村総合型地域スポーツスポーツクラブ「遊ゆうクラブ」）

～事例紹介の内容～

平成 16 年度から女性体育指導委員が中心となって学習会の開催、各種研修会への参加等で機運が高まり、平成 19 年度から２ヶ年委託事業として指定を受け設立準備を進め、本年２月に設立総会を開いた。クラブの理念は、地域に暮らす方が気軽に遊びに行けるスポーツ活動の場を提供し、健康で心豊かな生活と元気なまちづくりをめざすクラブとした。現在の活動はクラブの理念に立ち帰る事が多く、確かな理念の存在が大切である。会費も設立準備中から徴収してきたが、金額設定も広く役員や会員の意見を聞くことが大事である。また、事業規模により受講料や参加料を集めている。特に地域の実態に応じて柔軟に考えていく必要があり、役員等で話しあう事が大切である。また、体育協会よりわずかではあるが助成をいただき、教育委員会からも後押しがある。

～質疑応答～

・　会費内訳について、再度具体的に話して欲しい。
・　入会金、年会費のシステムについて説明する。

～グループワーク～

出席者より会費徴収や活動資金等について実態を紹介していただき協議を進めた。協議の中で道体協課長より助言をいただき、山本班員より、ｔｏｔｏ委託費の終了後の活動を展望し、財源の目処を立てるべきとし、釧路のパートナー会員制（賛助会員）を紹介した。

＜グループ３＞　テーマ「行政支援や関係スポーツ団体との連携について」

コーディネーター：足立　直人　班員（北海道ブロック地方企画班）
事例紹介者、助言者：浜上　尚也　氏（当別総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会）

～事例紹介の内容～

浜上氏より、当別町の取り組みを紹介する。平成 19 年度の１年間は調査期間として、総合型地域スポーツクラブの性質や対象・メリット等を調査委員会にて検討し、当別町での必要性を導きだし２年間の基盤運営を確立する期間として設立準備委員会を平成 20 年度に立ち上げた。組織の中心が体育指導委員であり、行政支援も確約を得てスタートさせた。行政の理解を高めるため、町の執行方針にも総合型地域スポーツクラブの取り組みについて触れさせた。事業としては、各種スポーツ教室の開催や体力テストの実施、講習会や研修会を開き、会員特定事業も増やした。22 年度の設立に向け事業計画も練っているが、課題として、理念の確立・人材の確保・拠点施設の確保などがある。当初は行政が関われば、

後々やりづらいのではと考えたが、今思えば、それなりに順調に進めたのも行政支援があったからこそである思う。

～質疑応答～

（質問）設立準備委員会に第三者評価があるが、どのような内容か。

（回答）教育委員を第三者評価委員と位置づけて、教育委員会で活動を報告し、１年目の状況や成果等について紹介し、意見をいただいたりしている。

～グループワーク～

- 既存団体を中心に設立準備委員会を立ち上げたが、総会に向けた最終段階で団体のエゴが出て崩壊する要素が発生している。行政支援も無く、体育指導委員も全く理解してない。どうしたら良いか。
- 小さい自治体は、職員が事務局を担当したり、地域住民としてクラブに携わるが、大きな都市での行政支援は薄いのが現状ではないか。
- 過去に、体育指導委員等の活動に全く非協力的な自治体も総合型クラブの設立で関係者が積極的に協力を仰ぎ、担当者も理解して、中規模都市でも総合型クラブに助成金を予算化した自治体もある。
- 市街地では取り組めず、小規模地域での取り組みを行政から依頼され、設立準備をしたが、委託事業が終了後は財政難で、助成金も人的支援も困難な状況で混迷している。
- 自分の町では、地域の将来を担う子どもたちに今何が出来るか、総合型クラブで取り組めないかを課題にスタートして、行政も大人への支援は手薄でも子どもたちへは、理解が高い。
- 当別町の事例紹介にあるように、生涯スポーツの取り組みとして、総合型地域スポーツクラブの取り組みも、行政方針や教育推進計画に位置づけを明確にする働きを各種審議委員等に働きかけるべきである。
- 今回のグループワークのテーマについて過去の取り組みも同じ協議内容・課題だけ未消化で残るので、道教委の担当者とも話しをしたが、創設に向けては、行政支援は欠かせない項目であり人手不足や財政難の理由もあるが、国や道のスポーツ振興計画にもあるので、道体協を含め、あきらめず相談したり話題を持ちかけて欲しい。当然北海道ネットも機能したい。
  （足立　直人　班員（北海道ブロック地方企画班）
- 課題や難問は当然発生するが、ぜひ、クラブ内で話し合うなど、一人で抱えないで欲しい。私たち（クラブ育成アドバイザー）にもぜひ相談してほしい。（加藤　保　氏（クラブ育成アドバイザー））

○まとめ

各グループワークで協議された内容（上記参考）を代表が報告して終了する。

＜第 2 日目＞

○ブースウォーク

全体コーディネーターである大沼　義彦　班員（北海道ブロック地方企画班）より、6 つの発表クラブの紹介を行い、ブースウォークの流れについて説明する。

～ブースウォークの流れ～

・３０分×２ローテーション～休憩～３０分×２ローテーション
（参加者は最大４つのクラブの紹介を聴いたり、質疑を行う）

～発表クラブ～

① 落部スポーツクラブ（北海道渡島管内八雲町）発表者　楢山　聡氏
② よりづか☆ちょいスポ倶楽部（　〃　北広島市）発表者　池　史直氏
③ 風連スポーツクラブ「ポポ」（　　〃　名寄市）発表者　山崎　真由美氏
④ 桜が丘ひぶなクラブ（　〃　　釧路市）発表者　菅原　登美枝氏
⑤ 多寄スポーツクラブ（　〃　　士別市）発表者　佐々木　文男氏
⑥ しおやユリピースポーツクラブ（栃木県塩谷町）発表者　柿沼　信子氏

～ブースクラブより応援メッセージ～

① 落部スポーツクラブ：会員仲良く楽しくをモットーに、行動することにより地域の方の協力が増す。見切り発車も輪が広がる。とにかく運営委員が楽しくなければ、会員も楽しめない。
② よりづか☆ちょいスポ倶楽部：色々な役員や会員がいるけど、楽しく笑顔で活動している。自分も（20 歳代）30 年後～40 年後も笑顔で活動できていればと願う。自分も会員の一人として楽しく運営に当たっていきたい。
③ 風連スポーツクラブ「ポポ」：昨日も役員が病気療養から復帰して、ふらふらしながら活動を見学していた。体は病気気味でもこころは健康だなと思った。個人の身体を健康にして、地域を活性化する当初の理念を思い出した。皆さんも自分が健康で楽しく活動する工夫をお願いしたい。
④ ひぶなスポーツクラブ：高齢者のクラブであるが、年を老いても楽しめる環境を構築したい。日常の会話や声かけも大事であり、サポートしてくれる方を一人でも増やすようプログラムの工夫を。
⑤ 多寄スポーツクラブ：皆さんの情熱を感じた。自分たちのクラブ立ち上げは早かったが、初心に戻って頑張りたい。
⑥ しおやユリピースポーツクラブ：北海道の皆さんのパワーを感じた。私たちも皆さんの活動を参考に充実したクラブ運営を図りたい。

○まとめ

全体コーディネーターである大沼　義彦　班員（北海道ブロック地方企画班）よりまとめの言葉をいただいた。色々なタイプ、活動を一同に聴けて良かったと思う。内容とともに活動の長さや継続性も理解でき、比較もできて参考事例を多く把握できたと思う。皆さんの今後の活躍を祈念して終わりとする。

（報告：北海道ブロック地方企画班員　足立　直人）